

専門部会議事内容結果（要旨）

専門部会名	第3回総合政策部会
開催日時	令和8年5月28日（木） 18時30分 ～ 20時20分
開催会場	名寄市役所名寄庁舎4階第1委員会室
出席委員	出席者：結城委員、遠藤委員、石田委員、今野委員、伊藤委員、守岡委員、上西委員、 成田委員、高橋委員、鎌塚委員 欠席者：小川委員、松前委員
事務局 出席者	石橋総合政策部長、櫻田総合政策室長、佐藤総合政策課長、横澤総合政策課主事
審議事項	1 開 会（佐藤総合政策課長） 2 部会長挨拶（結城部会長） 本日も活発な議論となることを期待する。 3 議 事 （1）第3次総合計画における基本構想について（横澤総合政策課主事） （2）（仮称）重要プロジェクトについて（石橋総合政策部長、櫻田総合政策室長） ⇒事務局からの説明後、意見を聴取 4 そ の 他（横澤総合政策課主事） 今後のスケジュールについて説明（次第裏面のとおり） 5 閉 会（佐藤総合政策課長） 頂いた意見を基に事務局にて内容を修正し、基本構想の内容を固めていく。

発言内容	(1) 第3次総合計画における基本構想について ○総論に関する意見 ・時代の潮流 (3) 国や北海道におけるデジタル化の取組について ■委員：計画期間中、国の「地方創生2.0」や「デジタル田園都市国家構想」といった政策名やトレンドが変わらないのであればこのままで良いと思うが、政策名は数年で変わることが多いため、特定の政策名（5.0など）や個別具体的な名称を固定して記載してしまうと、後で読み返したときに「古い時代の計画」に見えてしまう懸念がある。 もう少し「北海道のDXの動きに呼応する」といった、時代の変化に対応できる幅を持たせた柔軟な表現にした方が、後々困らないのではないかと考える。 ◎事務局：ご指摘の点につきましては、デジタル担当部局とも再度協議する。 ○基本目標に関する意見 ■委員：基本目標の中に市民アンケート等でも常に最重要事項として挙がる「若者の定住・地方定着」に関する直接的な文言が、基本目標の文章の中に明示されていないように見受けられる。基本理念や将来像などの文中に含まれていることは文脈からやんわりと理解できるが、これを明確に施策の柱として打ち出すべきではないか。 ■委員：基本目標のどこかに明確に位置づけるべきかと思う。基本目標4（産業・経済）あたりに記載してはどうか。 ■委員：「基本目標4」の現在の記述を見ると、交流人口や関係人口の拡大という「移動・交流」の文脈に寄っており、定住・定着という観点での押しが少し弱い印象を受ける。 ■委員：若者の定住・定着に関する内容の加筆と重要プロジェクト（仮称）につながる内容かと思うので、そこも念頭に置きながら文章の再検討をお願いしたい。 ◎事務局：事務局で表現について再度検討する。 ■委員：基本目標Vの内容の最終行について、「持続化可能な地域社会の実現」とあるが、教育や文化の文脈で唐突に「持続可能」という言葉が出てくる点に、少し説明不足というか違和感を覚える。 ■委員：ここでの持続可能な表現は、人口減少や指導者不足によって「これまでの環境を維持できなくなる（活動が奪われてしまう）」という危機感から、「今ある環境を落とさずに継続していく」という意味において使っているものと思っており、スポーツの現場としては「持続可能（持続可能性）」というキーワードは重要な言葉として捉えている。 ■委員：もしそのような意味合いで持続可能というキーワードを使うのであれば、文章の上段の中で、スポーツや文化芸術に「親しみ続けられる」などの表現でいいと思う。また、他の意味合いで「持続可能」について記載しているのであれば、その内容についての説明の文章が不足していると感じる。
-------------	--

発言内容	◎事務局：事務局において担当部局に意見を伝えたいという表現について検討することとする。 ■委員：教育部局がこの言葉に込めた思いや背景があると思うので、意図が正しく伝わるよう文章の肉付けをするか、あるいは表現を整理するか、事務局と教育部局と確認・相談の上で調整をお願いしたい。 ○将来像に込めた思いに関する意見 ■委員：基本目標に若者の定住に関する文言を入れたことに伴い、将来像に込めた思いの中にもその要素を入れてもいいのではないかと。 ■委員：上段最終行の“住んでよかった”の前に“住み続けたい”という文言を追加することでどうか。 ◎事務局：表現について検討する。 ○将来の展望と方向性 ・（２）持続可能な財政運営 ■委員：以前の素案段階と比較して、少し表現が消極的（トーンダウン）になったのではないかと印象を持った。 当初の案では「〇〇万円の黒字の維持」といった具体的な財政数値を含め、「財政基盤を強固に築いていく」という攻めの姿勢が示されていた。しかし、修正後は数値を削除し「選択と集中が必要があります」「～が求められます」「～重要です」という客観的な表現に改められている。 人口減少に伴い財政が逼迫していくからこそ、明確な「意思」や「攻めの姿勢」を示すべきページだと思うが、ややブレーキがかかった印象を受けた。 ■委員：基本構想の最終ページにある内容ということもあり、見たときに弾みを持ってない内容になってしまっていると感じる。具体的な金額数値を計画書に固定してしまうと、その数字に縛られて柔軟な財政出動ができなくなるリスクがあることは理解できるが、数値を除いたとしても、市として「どのような財政基盤を築いていくのか」という意思表示は前に出すべきだと思う。 ■委員：未来に弾みを持てる内容について意図はわかるが、ここで現状厳しい状況にあるということはしっかりと示していくべきだと思う。現実をしっかり受け止めることも重要。 ■委員：修正前の文章はストレートな表現だった。明るい未来となるような記載にこだわる必要はないが、市としてどのように受け止めて、何に取り組んでいくのか明確に記載し、表現していくべきだと思う。 ◎事務局：財政部局にも共有し、表現について再度検討する。 <u>（２）（仮称）重要プロジェクトについて</u> ○重要プロジェクトについて ■委員：「重要」と「重点」の違いや「挑戦施策」の位置づけについて説明を受けたが、正直なところ分かりにくく、市民にはまず伝わらないと感じた。市民への分かりやすさを最優先し、名称の整理をお願いしたい。
-------------	---